

消防指令システム等の相互接続に関する研究会（3回） 議事要旨

- 1 日時
平成30年2月20日（火） 13時00分から14時40分まで
- 2 場所
（一財）日本消防設備安全センター第1会議室
- 3 出席者（敬称略）
 - (1) 構成員
藤井座長（電気通信大学）、石橋座長代理（電気通信大学）、井上構成員（（一社）九州テレコム振興センター）、岡本構成員（駿東伊豆消防本部）、田中構成員代理（神戸市消防局）、喜島構成員（徳島中央広域連合消防本部）、島田構成員（長野市消防局）、杉村構成員（さいたま市消防局）、高橋構成員（京都市消防局）、日向野構成員（㈱日立国際電気）、前田構成員（（一社）情報通信技術委員会）、牧構成員（日本電気㈱）、松波構成員（日本無線㈱）、松本（耕）構成員（㈱日立製作所）、松本（信）構成員（沖電気工業㈱）、榊田構成員（東京消防庁）、山田構成員（富士通㈱）、山根構成員（㈱富士通ゼネラル）、吉田構成員（全国消防長会）
 - (2) 消防庁防災情報室
森川防災情報室長、阿部課長補佐、五通係長、藤田総務事務官、足立総務事務官
 - (3) 支援業者
（一財）日本消防設備安全センター
- 4 議事
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ア 前回国会の議事概要について
資料3-1に基づき、第2回国会の議事概要（案）について事務局から説明があった。
 - イ T T Cにおける共通インターフェース仕様の検討状況について
 - (ア) 資料3-2に基づき、T T Cにおける検討状況について事務局から説明があった。
 - (イ) 資料3-3に基づき、共通インターフェース仕様の構成と作成方針について
山田構成員（富士通）から説明があった。
 - ウ 構成員からのプレゼンテーション
資料3-4に基づき、異業者間接続における事例紹介について松本（信）構成員（沖電気工業）から発表があった後、以下のとおり質疑応答が行われた。

構成員：ゲートウェイ装置は、デジタル無線回線制御装置とセットで造られたようだが、どうやって、こっちが造るということを決められたのかを伺いたい。
構成員：指令システム側でゲートウェイ装置があったかどうかは確認できていない。同時期の発注ということで、消防本部が必要な機能は実現しなくてはいけないという意識が三者にあったので、実現に向けて協力し合ってゲートウェイ装置を造ったということである。指令システム側がどのような対応だったかは認識できていない。

構成員：インターフェースをうまく提示して繋ぐことができたということか。

構成員：そのとおりである。

構成員：最後の課題のところ、既設メーカーと優劣が発生しない仕組みが必要と書いてあるが、今回の共通仕様が完成すると、それが優劣が発生しない仕組みになると考えてよいか。

構成員：共通インターフェースを各社標準として実装するのであれば、費用面での優劣はなくなるものと考えている。ただし、既存の指令台、若しくはデジタル無線について、共通インターフェースを実現しようとしたときには、何かしら手が入ると思っており、その部分をどのようにしたいのかといったところの問題提起と考えている。

構成員：中間サーバーを、誰がどのように発注して造るのかということで、この部分で優劣が発生しないかといったところの注意が必要である。

構成員：消防の担当者に対して、どのような働き方を期待しているか。

構成員：消防が、どういったところで困っていて、どういったことをやりたいというところを明確にされるというのが、最終的に満足できるシステムを構築できるポイントだと思っている。

構成員：ゲートウェイの製造期間は3か月程度ということであるが、これは比較的、それ程難しくなく造れたということによいか。

構成員：今回の場合は、複雑なシーケンスがなかったということで、これだけの期間で済んだというのがある。あとは、出戻りがなかったといったところである。

構成員：事前協議がしっかりできたところが、この成功の秘訣だということか。

構成員：そのとおりである。

エ 論点整理

資料3-5に基づき、これまでの研究会を踏まえた論点整理について事務局から説明があった。

オ 意見交換

構成員：共通仕様書のインターフェース関係については、TTCで議論を深めていくのがいいのではないと思うが、2の発注仕様書作成上の留意点関係と3のその他の論点については、消防本部の費用負担への影響について意見を整理して、まとめて方向性を決めていかなければならないと考えている。

2の1に関しては、メーカーから、いろんな意見を頂いており、これについて消防本部から意見等があればお受けしたい。特に、既設設備の更新対象と既存設備の改修対象を別契約にすると良いということを論点2の1で言っているが、これについて、消防本部で意見や質問があれば、お受けしたい。

構成員：消防本部側では、そういったスキルが足りない部分もある中で、これらの文書にもあるとおり、発注元の消防本部が主体となって調整を行うということが、どこまでできるのかと懸念がある。

構成員：ある程度の規模の消防本部であればかなりできるかと思うが、規模の小さい所だと、この辺りを、どうやってまとめていくのが課題でないかと考えている。

両システムの接続のために既設設備の改修や中間サーバーの設置が必要となる場合は、別の事業に切り分けるということは良い方法だと考えているが、中間サーバーの費用自体が高騰すると身も蓋もなくなるので、この部分を、どのように安価に抑えるかがポイントかと考えている。

方針としては、別の事業に切り分けるという方法というのは、特段、異論ないということによいか。

他のところを先に意見を伺いたい。一つは論点2の2の独自機能のところ、意見を頂きたいのだが、独自拡張機能をどう取り扱うかということに関して、考え方(案)では、独自機能を入れることを妨げてはいけなないと思うが、新しい設備更新のときの障壁になっては良くないので、何か良い方法として、独自拡張機能をどのように扱うべきか意見はないか。

構成員：標準仕様書に記載のないものについては、ほとんどの消防本部が使っている、記載のない仕様、機能というものがある。一部の消防本部にしか入っていない機能がある。それが、今、仕様書以外の機能ということでまとめている。あるメーカーからの意見としては、指令制御装置からのこれらの種類のものには共通仕様としては必要ないというメーカーもいる。それぞれの意見が出ているので、本当に「いる、いない」ということを、今後、TTCで協議していく内容かと思っている。共通インターフェースを作らないものに対して、今後、それをどのように対応していくのかも論議していかなければいけないが、世の中に、こういった個別機能が存在して、それを「やる、やらない」は、最終的には、消防本部に判断をして頂くことになる。「いる、いない」の結果をもとに、見積もりの精度を検討する必要があるのではないかと。イメージとしては、個別仕様のところは、「造る、造らない」にしても、一度、きちんと整理しておく必要がある。

構成員：今ある個別機能については、TTCでかなり整理が進むのではないかと思う。あとは、これから新しく盛り込まれる機能というのは難しいとは思いますが、この案にあるとおりにすると、ある程度盛り込んでいく、インターフェースの仕様書で開示を求めていくと記載しておけば、対策がとれるのではないかと。

構成員：仕様書等で「事業者に対して独自機能に係るインターフェース仕様の開示を求める」というところだが、入札時に、こういう独自機能があると、それについては、インターフェースの開示を行うと言われたとしても、実際に入札から応札までの期間に、それがいくらかかるとか、そこまで検討する時間がない。結局は時間切れで、見送りというのが今までが多くあったので、論点1の4に戻って、基本的に継続的に見直しをしていく中で、あらかじめ独自機能ということで組み込むといった結果のものに対して入札のときに出すという流れができないか。理想的には、こういったきっかけで、そういうのを求めるかというのは、実際に機能を考えた消防本部やメーカーになるので、その方々が、発動、発議して、TTC等にあげるなどがあるが、その中で取組、検討をするような流れができれば、入札のときには、その結果、標準仕様書の一部として全く同じような取扱いとなると思うので、この方向に行くということで、いかに実現できるか検討して頂ければと思う。

構成員：一つの自治体のみでしか必要としない独自機能は、ほとんどないのではないかと。離島の村と東京のような都市部とは、もちろん必要な機能は違うだろうが、1,700以上の自治体は何らかのグルーピングされる可能性はあっても、少なくとも一つの自治体だけというのは、ほとんどないような気がする。個別でやる部分が発生するほどコストが高くなるのはしょうがないし、それは、その自治体の責任で払うべきであって、複数の自治体で本当に必要なものは、共通インターフェースで網羅、進化できるような流れを作ってもらえるといい。

構成員：共通仕様書のことは、今の意見を考えると、なるべく盛り込んで、そういう独自機能であっても、うまく接続できるような仕組みをしっかりと整えて置いた方がいいという意見だと思う。

構成員：論点1の4の継続的に見直しを行う仕組みというのは難しいところがあり、これをやろうとすると、独自機能を造る度に、会合を開いて足すとか、足さないとかをやらないといけなくなる。だからといって、3年も4年も放置しておくとか、どんどん独自機能だらけになってしまうので、このあたりをうまく仕組みが作れればと思うが、この会合を開く、若しくは消防庁で情報収集するとか、そういうやり方が考えられる。

事務局：今回TTCにSWGが置かれて、各社で議論いただいて、共通インターフェース仕様を作ることになっているし、また、どこかの消防本部のシステムに新しい機能が追加されたときは納入メーカーも知っているはずなので、このSWGの中で継続的にメンテナンスして頂くのが良いのではないかと考えている。

構成員：今回の資料3の3で、いくつか違いをまとめて頂いているが、このパターンがあるとか、グループがあるというときに、例えば1社だけしかリンクしていないとか、提案していないような機能とかは、本当に消防庁からみて、必要なかを詰めていく

必要がある。最後は、使う側の観点で、必要なものは何か、グループでいくつかオプションがあったときは、使う側からどういう違いがあるのかを理解した上で、ミニムは何かというステップに入らないと、ベンダーからすると、決めてもらうのを待つしかないということになる。それを決めなければ、可能性のあるオプションすべてをソリューションとして用意するということになり、結果的にコストアップになる。まず現実的にいくつかをオプションなりパターンが見えてきたときに、それを消防庁側から見て、使う観点で何が違って、これはミニムセットに必要なかどうかの判断を消防庁の中で練って、意見をフィードバックしないと、ベンダーは、全ての組合せを用意するというようになってしまう。

基本は、必要なものだけを共通仕様書に反映するという以外は、ソリューションにならないのではないかと考えている。

構成員：難しいのは、中間サーバーの時点で共通化しておかなければならない内容と、その後、完成したところで、仕様書には両方オプションも、今、書いておかないと、中間サーバーのところなどで問題が出るのかということもあるので、その辺りが難しいところがあるが、なるべく一つにできるところは一つにして、どうしてもないところは、複数作るという形がいいのではないかと思う。この辺りは、サブワーキングで、今後検討が進んで行くのかと思う。ただ、アップデートのところの仕組みは、サブワーキングが続くのであれば、そこで、うまくできるような形が取ればいかなと思っています。

事務局：今のところ、各社がそれぞれこういう実装をしているものがあるという例を出して議論をしているので、併記される形になっている。すでにある程度、絞り込む方向に向かってはいるものの、一本化した方が何を開発すればよいかははっきり見えてくるので、できればやった方がいいと考えている。どの機能がいる、いらぬという話に関しては、消防庁が直接、指令システムや無線設備を持っている訳ではないので、各消防本部から意見を出して頂きたい。

構成員：どのタイミングで出して頂くのがいいのか。もう少しまとまってからがいいのか。今の段階でどんどん意見を頂いた方がいいのか。

お気づきの点があれば、随時頂きたい。

構成員：それでは、サブワーキングに各消防本部は出ていないので、各消防本部は、資料3の3のところ、いろいろ意見を頂ければありがたい。

今、議論しているのは、論点の2の2と、1の4を、両方議論している状況だが、これについてはよろしいか。

独自機能のところは非常に難しいところは沢山あるが、開発する側も、入れてもらった方がいいという意見もあるので、できるだけ入れ込む形で進めたいが、あまりにも特殊な機能だとかだと、煩雑になる可能性もあるので、その辺りの具体的などころに関してはTTCで話していく形で良いと思うが、それ以外のところに関しては消防本部に一度チェックいただきたい。

あと、論点3は費用負担の話であるが、中間サーバーを導入することによって、費用が増えてしまうのをどうするか、これが大きな課題になると思うが、これについて、皆様の意見を伺いたい。

構成員：費用が適正かどうかを、消防担当が、市の財政部門に説明しやすいように、透明にしなければいけないのだろうと思う。

もう一つは、その費用についての財政支援があるのか。財政支援は、基本、自治体の財産になるものを対象にしているので、システムは、買い取る場合とリースで採用している場合があるので、リースを採用している消防本部も含めて、財政支援のメニューがあれば良いと思う。

事務局：費用が適正かどうかを判断するための仕組みとして、例えば同じような規模のシステムを持っているところ同士で、こういうのを構築したときにこれ位掛かったというのを共有することができないかというようなことが考えられるが、今後、全国消防長会をはじめとする関係者間で相談させて頂ければと思っている。

構成員：これについては、引き続き消防庁内でいろいろ検討を頂ければと思う。

構成員：中間サーバーは、既設メーカーが造ることになるので、競争原理が働かないことが一番の課題かと思う。

構成員：ゲートウェイの話に関して紹介された事例では3か月で出来たということだが、一般的に中間サーバーを造るときの問題点は、相手方の細部の仕様が見えずにブラックボックスになっていて、ここの交渉で時間（＝コスト）が掛かる。ところが、共通仕様ができると、おそらく、標準的に造らざるを得なくなる。自社側は分っており、外側は共通インターフェース、要するにブラックボックスがなくなるので、元々、消防システムのコストは大きいので、それに比べたら、遥かに小さい金額に相当するのではないか。

構成員：今の話しは逆ではないかと思っており、共通インターフェースに合わせて、既設を改修するというところが、今は価格が高くなっているということで、3か月というのは、あくまでも、ゲートウェイを造るケースと思われるので、違うかと思う。既設の改修もそうであるが、どういう機能を、既設を改修しなければいけないのかになるので、先ほどの標準仕様書の中にある機能で、「いる、いない」を明確にして、その項目単位で、開発ボリュームが見えて、試験期間が1か月とか2か月とか、限度がある工程になっているので、その中でどれ位の期間試験をやるとか、どれ位の人間を投入してやるとか、そういった見積明細が、きちんと出ることによって、消防本部である程度の妥当性が図れるのではないかとは思っており、ただ、全部が一律の値段にはならないので、古い消防システムを改修するときには、古いシステムだと、いろんなところに手を加えなければいけないし、最新のシステムであれば、ちょっとした改修で済むとか、バラツキはあると思うが、ある程度の妥当性はあるのではないか。

構成員：既設設備自体の古さというものも、かなり価格には影響は出てくるものか。

構成員：影響はかなり出る。

構成員：メーカーも自分のシステムと言いつつ、20年前、10年前とか古いものだと、どうなっているのか、自分のところで、再度洗い直しをしなければいけないのではないかと予想がつくが、これがボトルネックになっては、元も子もないので、できるだけ、このサーバーも共通化できれば、社内では共通に造れるような仕組みが造ればいいのではないか。

構成員：弊社では、来年度以降に消防指令システムの更新事業で、他社整備の消防救急デジタル無線と接続することが決まっております、今年9、10月には、弊社の場内において疑似的な試験環境で接続を行うので、これを接続試験として活用できるのではないかと思います。

事務局：今ご提案があったように、既に接続試験を行うような機会が見込まれていて、接続試験として活用できるのではないかという情報があれば、他のメーカーからもご提案をお願いしたい。

カ その他

事務局より、次回の会合は3月15日の開催を予定している旨の説明が行われた。

(3) 閉会

以上